

氏 名	金山 三紗子
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第 6 5 8 号
学位授与年月日	令和 7 年 3 月 1 9 日
審 査 委 員	主査 教授 長井 篤
	副査 教授 藤谷 昌司
	副査 教授 牧石 徹也

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

統合失調症は精神疾患の主たる疾患であるが、薬物療法の効果は寛解率が半数程度と高くはない。薬物療法で難治な状態に用いられる治療法として電気痙攣療法（Electroconvulsive therapy: ECT）があるが、治療効果の機序は不明な点が多い。

本研究は、統合失調症を有し ECT を施行された患者 11 名（男性 4 名）を対象として腸内細菌叢が ECT の治療効果を予測するかどうかを検証した探索的コホート研究である。

日本精神神経学会のガイドラインに従い実施した ECT（1 セッション、3－14 回）の前後で糞便を採取し、T-RFLP 法（terminal restriction fragment length polymorphism 法）を用いて細菌の構成割合を測定した。結果、ECT 前後で簡易精神症状評価尺度を用いて測定した統合失調症の重症度は有意に低下した（ $p<0.01$ ）。前後で各細菌の構成割合に有意な変化はなかった。一方で ECT 前の糞便中のビフィドバクテリウム属の割合が多いこと（ $p=0.023$ ）およびラクトバシラスが少ないこと（ $p=0.020$ ）が、ECT 後の統合失調症の重症度の低下と関連していた。バクテロイデス、プレボテラ、クロストリジウム属は有意な関連を示さなかった。

本研究は、未だ不明な ECT の効果発現機序、さらに統合失調症の病態解明につながる知見であるとともに、臨床面では統合失調症患者に ECT を適応するかどうかの選択に際して参考となる条件の開発につながる知見である。